



特別活動部会

特別活動部

特別活動を通した意志をもっている姿

望ましい集団をつくりたいという課題意識をもち、他者との対話を通して合意形成する中で、自己の生き方について考え、目的をもって自己実現を図ろうとする姿

視点 1

自らの学びを つなぐ

【その姿に向かうために】

- その議題や題材に関わる「望ましい集団とは何か」を学級内で事前に話し合う場を設ける。そうすることで目的が明確になり目的を基に考えた提案理由に沿った意見を伝え合うことができるようにする。
- 年間を通して繰り返し学級会や話し合い活動を行う中で、一つの意見に決めていく合意形成の仕方や課題解決に向けたアプローチの仕方について経験を通して学べるようにする。そうすることで一人一人の多様な考えを繋ぎながら、よりよい解決方法を自ら選択できるようにする。
- 提案ポストの設置や学級内アンケートを活用して、主体的に望ましい集団について見直す機会をつくる。そうすることでよりよい集団になるためにはどうすべきか、一人一人が目的をもって自分ごととして考えをもつことができるようにする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 子どもたちの多様な意見を、必要に応じて、相違点や共通点について整理したり、それぞれの意見の価値を上げたりすることで、他者の考えを受け止め、子ども自身が合意形成を図りながら意見をまとめられるようにする。
- 話し合いの中で、立場を明確にしながら意見を伝え合い、目的意識をもって話し合いに参加できるようにするためにタブレット端末等を活用し、自分の立場や思いを全員が可視化できるようにする。
- 話し合いを通して得た気づきを自覚し、日常生活に生かしていくために、様々な意見に触れて、自分の考えや思いはどうなったのかを、書き残す時間を確保する。
- 他者と協働して話し合いで決まったことを実践する中で、その活動の価値や新たな視点、改善点などの気づきを振り返る場を設ける。そうすることで他者と学び合うよさを実感し、学びから得た経験を今後の自己の生き方に生かすことができるようにする。

特別活動部の成果と課題

【令和7年度の特別活動部で目指した意志をもっている姿】

望ましい集団をつくりたいという課題意識をもち、他者との対話を通して合意形成する中で、自己の生き方について考え、目的をもって自己実現を図ろうとする姿

次年度につなげていきたいことや方向性について

視点1 自らの学びをつなぐ

学びの核を共有する価値

3年生実践「オンリーワンみどりっ子学習」では、みどりっ子学習を行う価値について、5年生実践「自分にできる仕事を見付けよう」では、仕事を行うことの価値について、前時までにこれまでの経験を振り返りながらその価値について考えを共有する時間を設けた。その価値を十分に理解することにより、その活動の目的を肯定的に捉え、意欲的に考えていこうとする子どもの姿が見られた。しかし、その価値を自分事として捉えきれていない子もあり、自己決定する場面では、決められない子や必要感を感じないままとりあえず決めるという子もいた。そのため、学びの核となる活動の価値の共有だけではなく、その価値を通して、自分がよりよくしていきたい課題は何かを見通すことまで行う必要があった。自分の課題と学びの核となるものの価値を照らし合わせて考えることで、必要感や目的意識が高まり、更に具体的にこれからのよりよい自分の姿を思い浮かべながら自己決定ができると考えた。

個人の結果や回答を捉え直す場

実践を行うにあたって、学級で事前に「みどりっ子学習」や「長期休暇中の仕事」に対する意識調査を行い、導入時にその結果を提示することで課題意識がもてるようにした。しかし、学級全体としての捉えが大きく、個人の課題としての捉えが薄くなり自分の課題と結び付かない子どもが多くいた。そのため、アンケート結果を活用する際には、学級全体の結果のみならず、個人の結果や回答を捉え直す場を設けることも必要であった。クラスの捉えと個人の考えを比較する時間と視点の共有を行うことで、具体的に自分自身のことについて見直すべき点や継続していきたい点が明確となり、よりよい生活や未来のために行動していこうとする意欲を高めることができると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者の学びと自分との距離を近付ける

他者の学びを6年生児童のみどりっ子学習、ゲストティーチャーの考えと位置付け、それらに対する考えを他者と共有する場を設けた。他者の学びに触れることによって新たな気付きが生まれ、解決策の見通しをもつことができていた。しかし、6年生児童の取組と3年生児童の取組の違いが大きく、6年生児童への憧れで終わってしまったことや、ゲストティーチャーのお話でも、自分との違いが大きく、解決策の見通しをもつことができない子もいた。そのため、教師が事前に児童の困り感を把握し、それに合った情報や資料を精選した上で、子どもの求めに応じて提示する必要があった。教師が困り感を視点ごとに分けたり、その子どものなりたいたいの自分の姿を把握したりすることによって、適切に関わりをもつことができ、他者の学びを自分の学びへ効果的に生かすことができると考える。

学びを整理し振り返る時間の確保

今年度行った実践では、他者の学びを自らの学びに生かすために、みどりっ子学習カレンダーに追記したり、冬休みの生活表に自己決定した活動を記入したりする場を設けた。その結果、自分がやるべきことが明確になり、具体的な活動を自分で位置付けることができた。しかし、十分な時間を確保できなかったため、思考を深めた結果のものとは言えないのではないかと考える。「学習の目的」、「今日の学び」、「自己決定したこと」のように学びを整理する必要があった。思考を整理することは自分自身を見つめ直す時間であり、自己実現に向けて重要な時間となる。45分間の授業構成を見直していくことも大切である。

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

みどりっ子学習の取組に課題意識をもち、自分が成長するために必要な学び方を選択して生かそうとする姿

本単元では、将来を見通し、なりたい自分に向けて努力する学級活動（3）として「みどりっ子学習」を題材に位置付けている。みどりっ子学習は学校で出される課題として自分にとって必要な学習を自分で決めて行うものだが、自分にとって何が必要かを悩み、取組に難しさを感じている児童も多々いる。だからこそ、みどりっ子学習の価値を全員で共有し、自分の成長に繋げるために、自分の課題を捉え、解決に向かう学習方法を学ぶ機会をつくるのが大切である。そこで上級生のみどりっ子学習の取組を参考にしながら、取組のヒントを見付け出す活動を位置付ける。そうすることで手本を通して、自分が成長するための具体的な取組方を見通しをもつことができ、自分の課題と照らし合わせながら自分に必要な学び方を身に付けることができる。この学びを冬休みにも繋げ、自分の成長のために意思決定した行動を日常から実践し、振り返る機会をつくることで、他の場面における自己実現を図る力を育むことに繋がると考える。

【単元の目標】

- ・みどりっ子学習の価値を理解するとともに、自分のみどりっ子学習での課題を明確にもって、自分の成長に必要な学習方法を選ぶことができるようにする。【知識及び技能】
- ・自分のみどりっ子学習への課題について考え、より成長するための課題を見いだし、解決のために話し合っ意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・自分が成長できるみどりっ子学習にするために、他者と協働して自分に合った学習方法を選び、実行しようと、主体的に行動できるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

みどりっ子学習を行う価値の共通理解

活動構成の中で、全校朝会の学びとそこで活用した資料を生かしながら、みどりっ子学習の価値を全員で共通理解する場を設け、自分の成長のためにみどりっ子学習が必要であることに気付けるようにする。そうすることで、みどりっ子学習を通して身に付く、決める力、計画する力、やり切る力、自分を見つめ直す力を視点として自分の課題と照らし合わせ、自分が成長するための具体的に解決方法への見通しをもちながら実践を通して自己実現を図ろうとする姿をねらう。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

上級生の取組との比較による考えの広がり

本時では、上級生のみどりっ子学習の取組を参考資料として提示する。そしてその取組と自分の取組を比較できるようにすることで、取組方の違いやその価値について他者と伝え合い、意思決定につながる選択肢を広げられるようにする。そうすることで、上級生の学び方を自分の取組に生かし、様々な方法から、自分の課題を解決していくために適切な方法を選べるようになるとともに、その学びをカレンダーへと位置付けて明確な目標をもってなりたい自分を目指す姿が生まれると考える。

【活動構成（4時間扱い）】

オンラインワンみどりっ子学習にするためには？

①みどりっ子学習の価値とは

全校朝会

何のために行うの？

ただノートを埋めるだけだと意味がないんだね。

めあてをもって取り組むことで自分のための学習に！

自分に必要な力を身に付けるためにがんばる！

朝のみどりっ子学習交流会

友だちはどんな取組をしているの？

ノートに丁寧な字で書いているのが素晴らしいな。

漢字テストに向けて、漢字練習をたくさんしている。

毎日休まずに取り組んでいるのがすごいな。

学級での話し合い

やることによる価値って？

自分でいろいろなことを決める力が付く。

先のことを計画する力が身に付きそう。

粘り強く最後までやりきる力が身に付く。

自分のことをもっと知ることができそう。

みどりっ子学習は自分の成長のために、必要なことに取り組むことで、色々な力が身に付くんだ！

②学級活動（3）（本時）

自分の成長のために必要な取組ってどんなこと？

めあて

もっと細かい目標を立てるとよさそう！

計画

いつ、何のテストがあるのかをカレンダーに書く！

時間

もっと長い時間、学習に取り組んでみよう！

内容

自分の好きなことをもっと深く調べる！

自分の成長のために必要な取組を自分で決めることができた！

③1週間の取組を終えて

1週間やりきることができてよかった！

冬休みの学習も同じように計画を立ててやってみたい！

意識してやってみると、大変だったけど成長につながりそう！

学びを生かす

④冬休みの取組を終えて

冬休み期間やりきることができた。これからも続けていくともっと成長できそう！

自己実現へ

みどりっ子学習だけでなく、他の場面でも今回の経験を生かしたい！

【本時の目標】

自分と上級生のみどりっ子学習を比較し、グループで話し合う活動を通して、課題解決に向けた他者の考えを取り入れ、自分の課題に合った意思決定ができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】

現在のみどりっ子学習の取組の課題を発見し改善して、自分が成長するために必要な学び方を選ぼうと他者の意見も取り入れながら意思決定に向かおうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

【本時の展開】（2/4）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ 「みどりっ子学習は何のためにやるのか」について学級で話し合い、自分を成長させるために、一人一人がそれぞれに合ったやり方で取り組むのが大切だということを確認している。		
【つかむ】 ○みどりっ子学習についてのアンケート結果を提示 3年生になってからのみどりっ子学習の取組はどう変わった？ 朝の交流会や話し合いをしたおかげで、よい取組ができている！ みどりっ子学習は自分の学びにつながっている？ あまり自分が成長できるような学習になっていない。 みどりっ子学習を行う価値は、 自分の成長のために必要なことを自分で決めて取り組むこと 【さぐる】 みどりっ子学習を行うと、具体的にどんな力が身に付くのか？ 自分で様々なことを決める力が付く。 先のことを計画する力が身に付きそう。 粘り強く最後までやりきる力が身に付く。 自分のことをもっと知ることができそう。 自分の成長のために必要な取組ってどんなこと？ 【見つける】 ○自分と上級生のみどりっ子学習カレンダーを比較し、上級生の取組のよさを見つけ、鉛筆で印を付ける（グループ交流） 具体的なめあて 事前の計画 取り組む時間 力の付く内容 細かい目標を立てて学習しているよ！ いつ、何のテストがあるのかを書き込んでいる。 長い時間、学習に取り組んでいるよ！ 自分の好きなことを深く調べているよ。 自分が成長するために必要な取組は？ 【きめる】 自分がこの先も成長を続けていくために、 今後のみどりっ子学習に生かせそうなことって？ ○自分が取り入れたいと感じた取組に赤ペンなどで印を付ける ○みどりっ子学習カレンダーを記入 自分の成長のために必要な取組を自分で決めることができた！ ○振り返り 自分の課題を解決するための方法を見付けられた！ 冬休みにも生かすことができそうだよ！ この方法を実際にやって、もっと色々なことを計画できるようになりたい！	つかむ さぐる 見つける きめる の流れ方 みどりっ子学習を行うことの価値や、身に付く力の理解 グループでの話し合いの進め方	事前に児童に取ったアンケートの内容から学習の取組方の成長とその取組方による効果の実感を提示することで、認識のズレを生み、自分の成長に繋がるみどりっ子学習にするための課題に気付けるようにする。 （視点1） みどりっ子学習を行うことで身に付く力を確認し、自分の課題と照らし合わせる機会を設けることで、課題解決に向けた方法の見通しをもてるようにする。 （視点1） 上級生の取組と自分の取組を比較してよさに印をつける活動を通して、様々な方法に気付けるようにする。その取組の価値について他者と話し合うことで、取組方への考えを広げられるようにする。 （視点2） これまで学んだ様々な取組方とその価値を基に、実際にみどりっ子学習カレンダーに記入する場を設定する。そうすることで、今後の活動を明確にし、日常の実践につなげようとする意欲を高める。 （視点2）

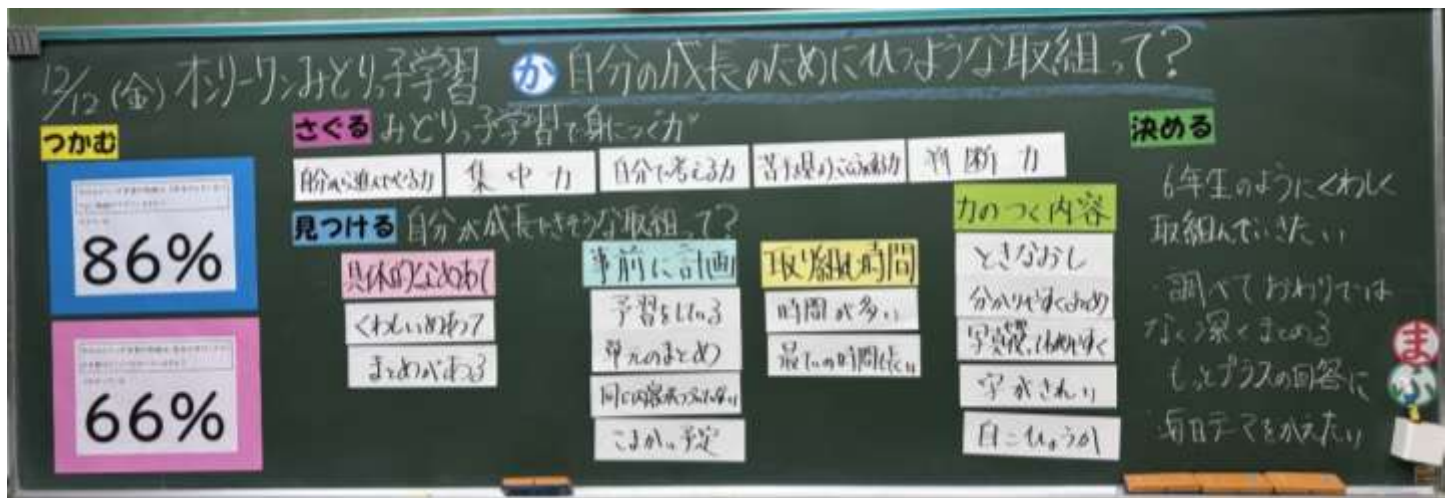
【本時の評価】

自分が成長できるような意思決定をするために、上級生の学び方や、他者の意見を取り入れ、具体的なめあて、事前の計画、取り組む時間、力の付く内容から自分に必要なものを選んでいく。

自分が成長するために必要な学び方を上級生の学び方や、他者の意見をもとにしながら考え、この先の生活に生かそうとしている。（行動観察・みどりっ子学習カレンダー）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- みどりっ子学習を行う価値は何かについて前時で話し合うことにより、目的をもって継続的に取り組めば自分の成長につながるというよさを確認し、自分の成長のために必要な取組を見つけようと意欲的に学ぶ児童の姿が見られた。
- アンケートの結果から導入を行うことで、みどりっ子学習への取組方と成長の実感との認識のズレが学級全体として生まれ、共通理解を図ることができた。
- みどりっ子学習を行うことで、具体的にどのような力が付くのかを学級全体で改めて確認したことにより、課題を解決するために、自分が行うべき取組は何なのか明確に考える姿を生むことができた。

【課題】

- 事前アンケートの結果から、クラス全体で認識のズレを生み、共通理解を図ることはできたが、子ども一人一人が自身の課題は何なのか具体的に考えていくところまでつながらず、課題を自分事として捉えることができない部分があった。「全体」から「個」の課題へどうつなげていくのか、アンケートのデータを深く読み取る必要があると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 6年生のみどりっ子学習を見ることで、他者の学びに触れ、それに対する考えを他の児童と共有できるような場を設定したことにより、新たな気づき生まれ、課題を解決するためには何が必要か見通しをもつことができた。
- みどりっ子カレンダーに自己決定した活動を記入したことによって、自分がどのような活動をするべきか明確にすることができた。

【課題】

- 6年生の児童と3年生の児童のみどりっ子学習の取組では、取組の差が大きすぎたため、6年生のすごさに気付くことはできたが、自分事に落とし込むのが難しくなってしまった。もっと身近な4年生の取組を取り上げたり、6年生のすごさについてもっと具体的に聞いたりすることが大切だと考える。
- 他者の学びを自らの学びに生かすために、みどりっ子学習カレンダーに、自己決定した活動を記入する時間を設定したが、十分な時間を確保することができず、思考を深める時間とは言えない結果となってしまった。自己実現において考えを整理する時間は重要であるため、授業の構成を見直す必要がある。

『自分ができる仕事を見付けよう』

令和7年12月24日（水）
児童 5年2組 30名
授業者 黒田 健太

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

働くことのよさを理解し、自分の成長のため、人のために自分ができることを見付け、実践しようとする姿

5年生は、委員会活動などでよりよい学校を目指し、主体的に活動できる場面や、遠足などの行事を通して低学年をリードし、よりよい活動をつくりあげるために、他者と関わりながら主体的に活動することができる機会が多くある。しかし児童の実態として仲間に働きかけながら自分から相手のために力を尽くし、よりよい学校生活を目指そうと主体的に活動する児童が少ない。そこで、人のために自分の力を生かすことができる「働く」ことの価値を全員で話し合うことで、その必要性に気付き、これからの学校生活につなげられるようにした。また今回の学びを日常生活にもつなげるために、冬休みの生活表に「家族のために自分が行いたいこと」を記入することによって、取り組む内容が具体的となり、計画的かつ持続的に取り組むことが可能となる。そうすることで、日常生活のあらゆる場面で人のために自分が力を尽くすことの価値を実感することができ、なりたい自分に向けて自己実現を図る力を育むことができると考えた。

【単元の目標】

- ・人のために自分の力を尽くすことの価値を理解するとともに、自分の成長した姿を見通しながら、実現に向けて必要な知識や行動の仕方を身に付けることができるようにする。【知識及び運動】
- ・人のために自分の力を尽くすことの価値を理解し、これまでの長期休みにおける、家族のための取組を見直しながら課題を捉え、家族のために自分が取り組むべきことについて意思決定できるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・現在及び将来にわたって、人のために力を尽くし、よりよく生きるために、自分に必要な目標を設定し、達成を目指して主体的に行動しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

なりたい自分の姿から生まれる目的意識

本時の導入で、事前に行った「お家でどれだけ仕事をしているか」についてのアンケート結果を提示する。さらに前時での「働くことのよさ」を実感したうえで、よりよい自分の姿を問うことで、アンケート結果と自分の理想の姿とのズレから、よりよい自分の姿に向けて行動していきたいという目的意識をもつことができるようにする。そうすることで、自分の課題に目を向け、課題解決に向けた様々な視点から解決を図ろうと主体的に実践する子どもの姿を生むことができると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

ゲストティーチャーの活用による考えの深まり

本時では、お家で自分ができることが見つからないという思いをもっている児童を見取り、困り感を全体で共有する。そして保護者の目線でゲストティーチャーから具体的に取り組める事例やその効果をお話いただくことで、自分の生活と関連させながら考えを深め、意思決定に向けた見通しがもてるようにする。取組だけでなくその効果を伝えることで、家族だけでなく自分の力になることに気付き、人のために働くことが自分の成長に繋がっていることを実感できるようになると考えた。

【活動構成（2時間扱い）】

① 『働くこと』のよさを学級で話し合う活動を通して、学校生活での自分の行動を見直す中で自分の課題を見付け、人のために自分ができること決める1時間	② 前時のつながりを意識しながら、家庭での自分の行動を見直し、よりよい生活を送るために、家族や自分のためにできることを決める1時間（本時）
つかむ 働くってどういうことなのかな？ お給料をもらって行くことじゃないかな。 社会に貢献し、他の人の役に立つこと 誰かのために一生懸命頑張ることかな。	つかむ 事前アンケートより お家では、どれだけ仕事ができていると感じているかな？ アンケート結果より 00% 長期休みは頑張るけど毎日頑張っているとは言えないかな…
学校生活では、自分はどれだけ仕事ができていると感じているかな？	さぐる どうしてお家でできていると自信をもって言えないの？
アンケート結果より 00% 仕事はしているけど、自分からみんなのためにはできていないかも…	正直毎日行こうが大変。 結局やっってもらうことも時折ある。
さぐる どうして進んで働きたいと思える人が少ないのかな？	自分やお家の人のためにお家で自分ができることはどんなことかな？
誰かがやってくれると思っちゃって…。 当番活動以外にはどんな仕事があるか分からなくてできないことあるかな。	見付ける ゲストティーチャー 小学生のお子さんをもつ坂野先生 実際の保護者の意見
働くよさって何だろう？	決める
見付ける ゲストティーチャーによるお話（用務員さん・児童会長・校長先生）	自分の部屋をきれいに保つことを毎日頑張る。 掃除は週に2回と決めてカレンダーに書いておくよ。 続けていくために時間を決めて取り組むようにする。
みんなのために自分から掃除を当番以外の仕事もやります。 委員会活動で色々な企画に挑戦して他の学年を喜ばせたい。 自分やみんなの成長のために挨拶や発表を毎日続けたいな。	お家の人やゲストティーチャーの話を聞いて、具体的に自分が取り組むべき課題とやることが分かったから実践したい。
働くことの意味が分かったし、自分が他の人のためにできることも見付けることができたよ。決めたことを3学期にも頑張っていきたい。	冬休みに実践・反省

【本時の目標】

事前に行った『働く』ことに関するアンケートを見つめ直す活動を通して、自分の課題を捉え、課題を解決し、よりよい成長につなげていくために家庭での生活の中で自分が人のためにできる仕事について考え、意思決定ができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（2/2）

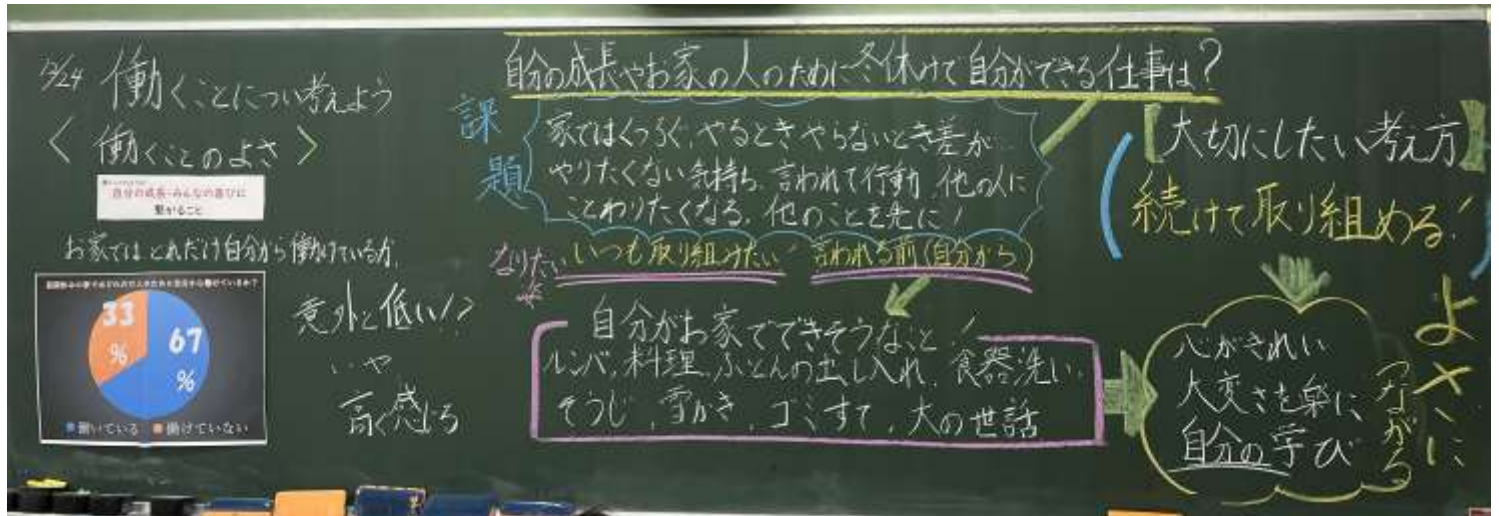
子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
<前時まで> 『働くこと』の意味を捉え、学校生活で自分の成長や他の人のために自分ができていることを考え、実践していきたいことを決めている。また『働くこと』に関する事前のアンケート調査を行い学習前の自分の捉えを明確にしている。		
つかむ 事前アンケートの紹介 長期休み期間、お家ではどれだけ仕事をできていると感じますか？ アンケート結果 67% 毎日しっかりとできているとは自信をもてないな。 事前に決まっていたときはちゃんとできるけど。 さぐる 原因の追究 どうして自信をもってしっかりとできているとは言えないのかな？ 予定が入ったりすると計画していたことができないから…。 事前に決めてやってみるけど、大変だから続かない。 そもそもどんなことをすればいいのかわからなくて。 なりたい自分の姿は？ 自分から人のためにできることを取り組める人になりたい。 お家の人からも頼りにされるような存在になりたい。 自分やお家の人のために、お家で自分ができるとはどんなことかな？ 見付ける ゲストティーチャー 保護者の方からもらったアンケート結果より 小学生のお子さんをもつ坂野先生のお話より 継続することで習慣になり自分の力にできる。 新しいことにチャレンジできるいい機会だね。 一緒に取り組むことで不安なくできそうだよ。 お家の方の考えを聞いてできることがはっきりした。 自分の成長のために お家の人のために 決める これまでの学習を生かして冬休み中に取り組みたいことを自分で決めて、生活表の中に記入する。 5年生の学習で学んだお米研ぎをご飯の時は毎回自分が行って、料理にもチャレンジする。 洗濯物をたたむ方法をお家の人から教わって、お家の人負担を減らせるようにしたい。 ゲストティーチャーやみんなの話を聞きながら、自分の生活を見直して、冬休み中にやりたい仕事が見付かったよ。 学習の振り返り 最初は仕事が嫌だと思っていたけどやりたい気持ちになった。 続かないときがあるから継続を目標にして頑張りたい。	つかむ さぐる 見付ける 決める の学習の流れ これまでの生活経験を基にした自分の課題 働くことのよさ ゲストティーチャーや保護者の方からの具体的な事例	事前に行ったアンケート結果を提示し、数値から受ける印象を問うことで、長期休み期間中の自分の生活を見直し、課題意識をもつことができるようにする。 (視点1) 働くことのよさを確認したうえで自分が理想とする姿を問うことによって、なりたい自分の姿を具体的に捉えられるようにする。また今の自分との比較を促すことによって、その姿に向かうために課題を解決したいという思いをもてるようにする。 (視点1) 具体的に何をお家で取り組みればよいか分からないという思いをもっている児童を見取り、ゲストティーチャーのお話と保護者の方からのアンケート結果を提示することで、自分の生活と重ねながら具体的にできることを見出すことができるようにする。 (視点2) 意思決定した後に、生活表へ記入する時間を確保することによって、自分の学びを明確化し、冬休みの実践に向けた意欲の高まりにつなげるようにする。 (視点1)

【本時の評価】

よりよい成長につなげていくために家庭での生活の中で自分が人のためにできる仕事について考え、冬休み中にできる仕事について意思決定することができている。（行動観察・生活表の記入内容）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 働くことのよさは何かを前時で話し合うことにより、働くことに対して肯定的に捉え、お金のためだけでなく、一緒に過ごす多くの人のため、自分自身のために進んで活動したいという意欲をもった児童の姿が見られた。
- アンケート結果を基に、自分の生活経験と重ねて考えることによって、自分の行動を見つめ直し、長期休み期間中の自分の仕事に関する課題を具体的に想起することができていた。
- 課題を明確にするだけでなく、自分の理想であるなりたいたい自分の姿を想起させることにより、目標に向かって、課題を解決するために必要なことは何かを具体的に考えることができていた。

【課題】

- 事前アンケートを導入時に提示することで、自分のクラスの働くことに対する意識を把握することはできたが、はっきりとした課題意識が生まれたわけではなく、教師がこのアンケート結果をどうとらえるかを問うことによって、数値に対する見方を変え課題意識に向かっていた。アンケート結果を提示するだけでなくどうしてこの数値になったのか、自分たちの課題はどこにあるのかなど、その数値を基にしながらさらに深く分析する必要がある。
- 学級内アンケートはあくまで学級のことであり、自分自身と重ねたときに差が生まれている児童も多くいた。個人の結果も参照しながら個の課題を明確化できるようにしていくことも必要である。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 児童同士の話し合いで完結することなく、ゲストティーチャーのお話を取り入れることによって、長期休み期間中の仕事について大切な要点を全員で共有することができ、その要素を自分の学びに取り入れることができていた。
- より自分事にしていくために、実際に保護者からいただいた「長期休み期間中のお子様の仕事の様子」についてのアンケート結果を伝えることで、お家の人の考え方にも触れ、自分の生活と重ねながら、具体的にやりたいと思えることを見付けることができていた。

【課題】

- ゲストティーチャーのお話を通して、具体的に長期休み期間中にできる仕事の内容を学ぶことはできていたが、本当にその内容が自分に対して必要なものか吟味ができている児童が少なかった。自分自身の課題やなりたいたい自分の姿を具体的にし、その目標と照らし合わせることにより、ただ仕事を見付けただけで終わらせずに、自分の生活や目標にあった内容の工夫も見いだせたのではないかと考える。
- 学習の最後に、本時の学びを振り返る時間の確保が必要であった。自己決定することを最終的な目標とするのではなく、本時の学びを活動にどのようにつなげるかも児童へ考えさせるべきだった。本時の最後に自己決定した内容のみならず、学びを生かして自己実現に向けた具体的な計画も行うことで、継続した学びへとつなげられると考える。